

青年教職員は今

2019 年度版

—アンケート結果から見る若い教職員の思い—



東京教組青年部

青年教職員は今 —アンケート結果から見る若い教職員の思い 2019 年度版—

青年部が毎年実施している「東京都で働く若い教職員の方々へ」と題するアンケートに、今年は248名（昨年度240名）の皆さんが回答を寄せてくださいました。

今年も不安や悩みや、長時間勤務、パワーハラスメントに苦しみながらも、働きがいを持って頑張る青年教職員の姿までが浮き彫りになりました。

回答してくださった248名の内訳は、小学校188名（76%）中学校57名（23%）幼稚園3名（1%）でした。

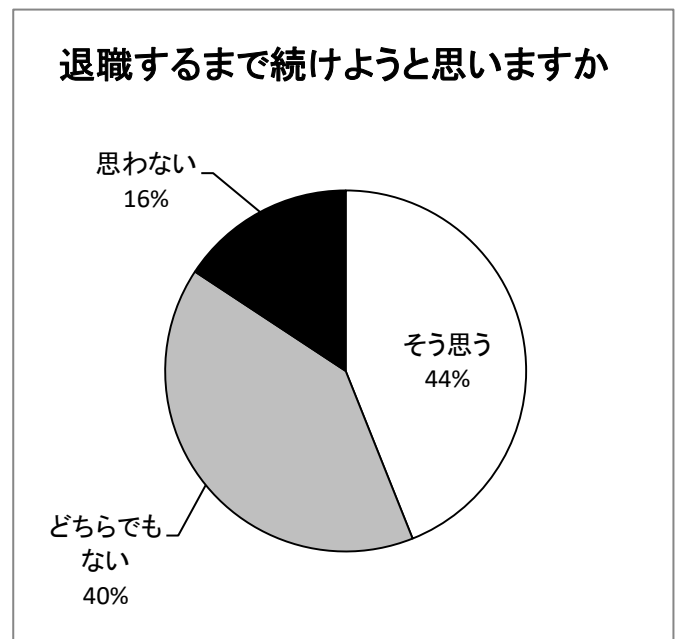
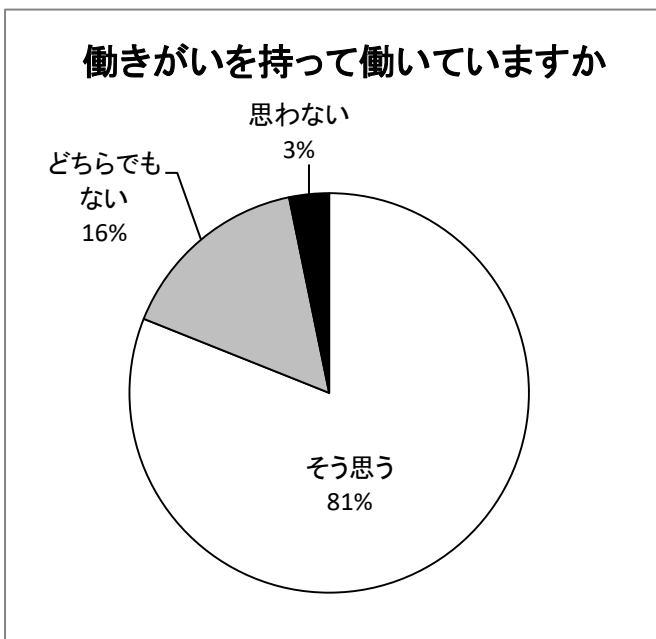
新採用が一番多く132名（うち期限付任用5名）に続き、2年目58名、3年目22名、4年目以降32名、産育休補助教員4名、その内、学級担任が152名（62%）でした。

働きがいを感じ、退職まで続けようと考えている青年教職員

最初の質問、「働きがいを持って働いていますか？」に対し、「そう思う」が81%（78%）、「どちらでもない」が16%（18%）、「思わない」が3%（4%）でした。

また、「退職するまで続けようと思えますか？」という質問には、「そう思う」が44%（45%）、「どちらでもない」が40%（41%）、「思わない」が16%（14%）という結果でした。

（ ）内は昨年度の数値



ほとんどの方が、働きがいがあると答えていらっしゃいますが、退職するまで続けようと思っている方になると、大きく減っているのが気になります。

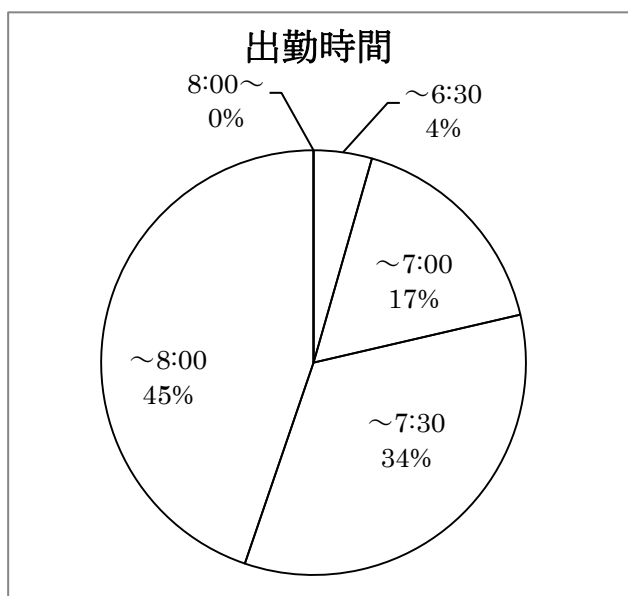
過酷な勤務実態からの、健康への不安、将来への不安などによるものと思われます。このような声が寄せられています。

- ・結婚をして、今後、子どもができた時に、今の働き方・環境で大丈夫か不安になるときがある。
- ・子育てとの両立は不可能であると感じています。
- ・勤務時間の長さはどのように効率よく行えばよいか、とても悩みます。まだ新採だから仕方ないのかと思うこともありますが、先輩の先生方も遅く、将来が不安です。（子育ての時など）
- ・仕事量が減らない限り、この職を続けることは不可能と感じています。好きな仕事だけど、やめざるを得ません。

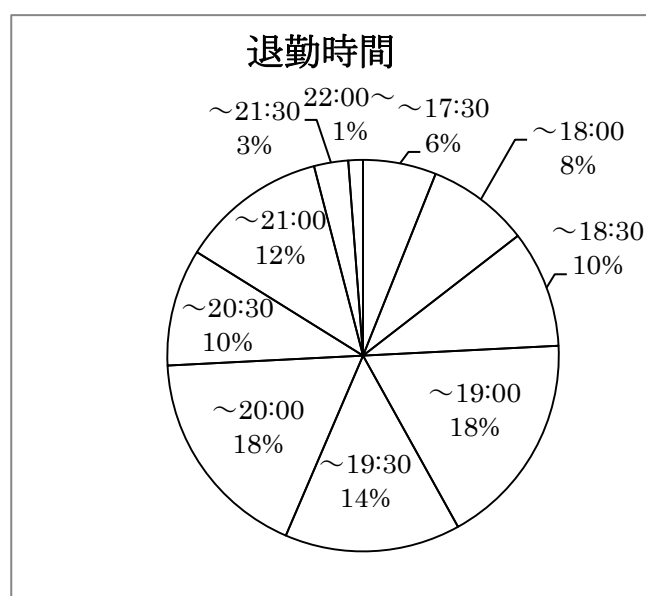
在校時間は、平均 12 時間 05 分！ 1 日、15 時間以上勤務の人も！！

出勤時間、退勤時間についてお聞きしました。

出勤の平均は、7 時 27 分



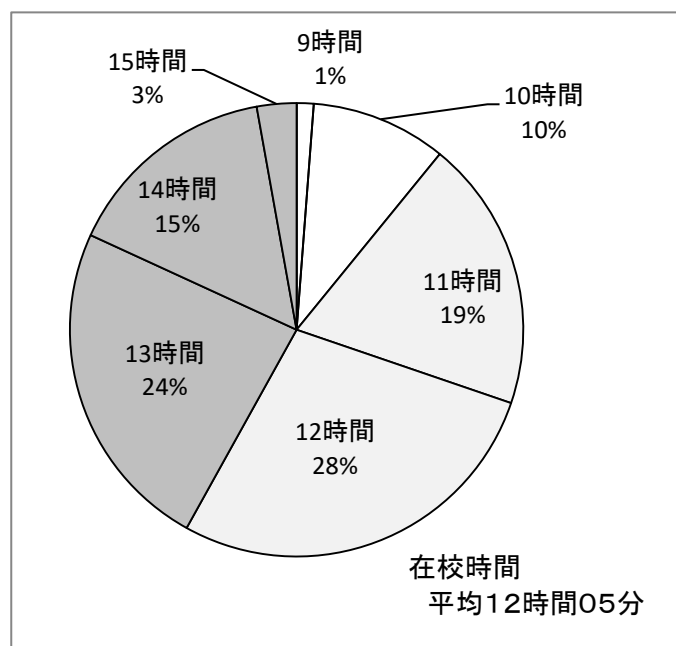
退勤の平均は、19 時 32 分



青年教職員の長時間勤務の実態は、深刻な状態が続いています。

今回のアンケート結果では平均在校時間は 12 時間 05 分 (昨年より 14 分減、一昨年度より 21 分減) となりました。

これは退勤時刻が昨年より 14 分、一昨年より 22 分早くなった結果です。教職員の長時間労働が大きな問題となり、解消のため多くの学校にタイムレコーダーが導入されました。その結果、管理職が定時になったら帰宅するよう声をかけることが多くなったことが原因と考えられます。ある意味では改善が進んでいると言えるかもしれませんが、本当にそうでしょうか。こんな声が寄せられています。



- ・管理職に早く帰れと言われますが、終わらなければ持ち帰らなければならず、家には子どもがいるので、家での仕事は無理です。もっと学級の子どもと向き合いたいが、時間が取れていないことがとても残念です。
- ・働き方改革の一環としてタイムカードが導入されたが、仕事の内容や量は増える一方なので、結局、早く帰っている人も持ち帰り仕事をしている。
- ・出勤はしていないのですが、平日も勤務後に持ち帰り仕事をしたり (平均 2 時間程度)、休日も丸 1 日～2 日仕事をしています。出勤していないのは、その時間や体力が惜しいからです。
- ・休日出勤はなるべくしないようにしているが、休日に家で仕事をするのは毎週のこと。土日のうち一日は仕事をしている。

勤務時間は短くなっているようですが、その分、持ち帰り仕事が増えているのが実態のようです。

短くなっているとはいえ、長時間勤務は続いています。

毎日 11 時間以上勤務の人が 89% (93%、一昨年度 91%)。労働安全衛生法に基づき医師による面接指導が必要な月 80 時間以上の超過勤務の人が 70% (80%、一昨年度 80%) 医師による面接指導が義務付けられている月 100 時間以上の人は 42% (53%、一昨年度 52%) 1 日で 2 日分近い勤務時間となる 15 時間以上の人 が 4% (3%) です。管理職は、どこまでこの実態を知っているのでしょうか。

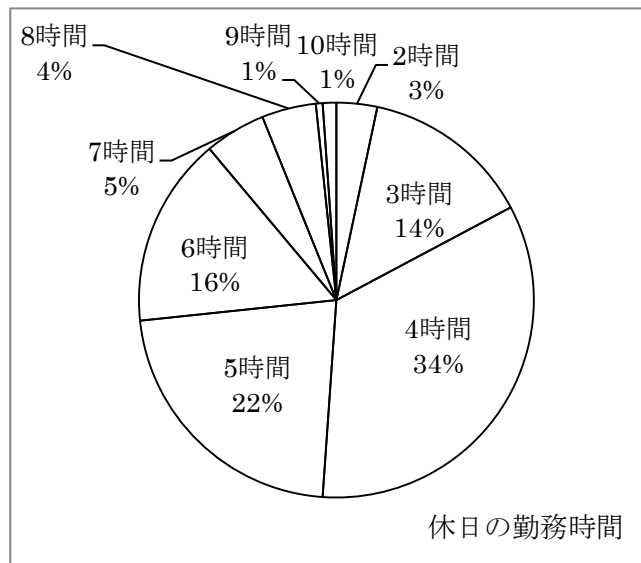
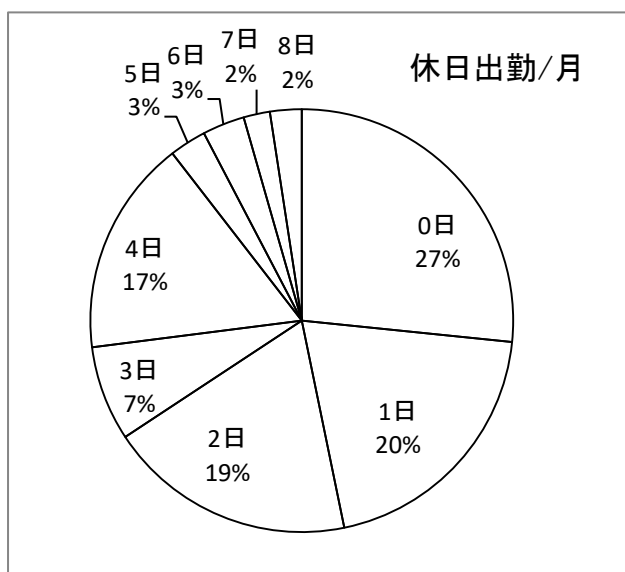
労働基準法では、労働時間は 1 日 8 時間・1 週 40 時間と定められています。これを超える労働は時間外労働となり、基礎賃金の 25 パーセント増し以上の割増賃金 (残業代) を支払わなければなりません。また、1 ヶ月に 60 時間を超えたときは、基礎賃金の 50 パーセント増し以上の割増賃金 (残業代) を支払わなければならないとされています。

このため民間企業では、労働時間を正しく把握すると同時に無定量の残業を抑えるため、残業する場合、管理職に報告し、許可を得ることが必要になっています。(いわゆるサービス残業が発生していることも事実ですが)

私たち教員には割増賃金は適用されませんが、管理職は労働安全衛生法上、正しい労働時間を把握しなければなりません。そして過度な超過勤務に対しては、減らすよう努力しなければなりません。

東京教組は、過重労働解消に向け、今後もとよりくみを強めていきます。

休日勤務も増えている！



もちろん休日出勤が 0 の方もいらっしゃいますが、多くの方がさまざまな理由で、土日も出勤されています。それも 4 時間以上勤務が 80% を超えています。とくに中学校では部活動の関係でほぼ 100% の方が、6 時間以上の勤務をされています。また、土曜授業・授業参観は勤務の振替が長期休業中になるため、疲れがとれないという訴えも多く聞きます。とくに青年教職員は、地域行事等の休日出勤を割り振られることが多く、大きな負担になっています。

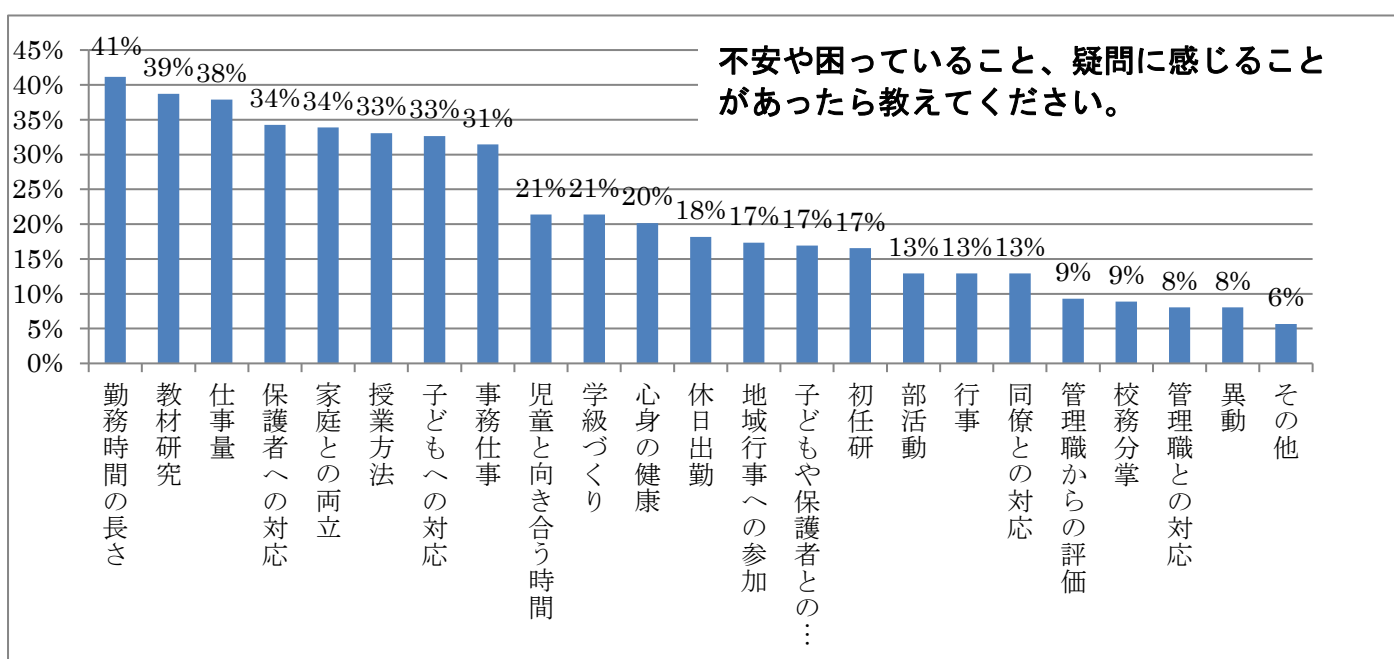
- ・働き方改革が進む中、地域行事へ土日に参加することに疑問を感じる。教員が出る必要があるのか。
- ・家と学校が遠いので、土日祝日の地域行事への参加の強制はやめてほしい。担当している子どもではないので、手当をもらったとしても参加する意義がわかりません。
- ・現在は、校長、副校長ともに、とても親身になって相談にのってくださる状況なので、忙しい中

でもなんとか頑張っています。ただ、部活の公式戦引率など、土日祝の負担が大きく、休暇がとれない日々が続いており、どこかで折れてしまいそうで不安です。同僚みんな頑張っているのに、晴れ晴れとした気持ちで働けない忙しすぎる現状に疑問を感じています。

青年教職員は、勤務時間の長さ・教材研究・仕事量・授業方法に不安を感じている。

「不安や困っていること、疑問に感じることなどがあったら教えてください。」という問いで、最も多かったのが「勤務時間の長さ」です。続いて、「教材研究」「仕事量」「保護者への対応」「プライベートや子育てや家庭との両立の時間の確保」「授業方法」「子どもへの対応」「事務仕事」に30%以上の方が不安や疑問を感じています。また「部活動」は、全体では13%ですが、中学校教員の中では50%を超える方が問題点として挙げています。

青年教職員は、①仕事が多すぎる。長時間勤務を何とかしてほしい、②教職員として力をつけたいと、感じていることがわかります。



その他・自由記述欄には、具体的な悩みや疑問が寄せられました。一部を紹介すると、

- ・授業の準備、後始末が後回しになるほどの仕事量という物理的に時間がない。足りない。どうすればいいのかわからない。休日に残りをするしかない。
- ・とにかく行事や事務作業で、授業を向上させる研究や児童と向き合う時間が削られる。
- ・自宅と職場の往復で、一日が終わるのは本当に嫌ですが、変えられない現状です。
- ・とにかく部活動の負担が大きい。運動部などを免れても、プレッシャーを感じる。休みにくく、自分の時間が取れない。
- ・部活によって休みがなくなる。授業の準備もうまくできない。ストレスが溜まって学校に行くのがつらいと思ってしまう。
- ・部活動や長時間勤務がもう少し改善されると、働きやすくなるかと思えます。夢の仕事だったけれど、入ってみれば教科指導以外の雑務に日々追われ、まだ二年目なのでほかの教員にも頼みづらく、毎日授業研究もできずに授業をしている、そんな状態です。
- ・会計事務は、教員の仕事ではないと思う。宿泊の会計も、大変時間がかかる。子どもと向き合うのが教員の仕事であってほしい。

- ・地域の夏祭りパトロールとして、教員が 21:00 ごろ勤務地に集められる。それは保護者、地域ですることだと思う。なぜ教員が強制的に集められるのか疑問である。
- ・保護者からの苦情などへの対応で、管理職の対応と意見が分かれたことがあり、生徒や自分を守ることが厳しいと感じたことがあった。

研修の回数・レポートが多い、現場で生かせる内容に！

初任者研修、2、3、4年次研修について、困ったこと、疑問に感じたことなどを記入式で聞きました。

研修の回数が多く、本務である授業や子どもたちと向き合う時間が犠牲になっている悩みが多く寄せられました。研修内容や同期との情報交換など役に立つという声がある一方で、実際の授業や教育活動に役立つ内容を願う声も多く寄せられています。特徴的な記述を紹介します。

回数、時期、内容、レポート量

- ・回数が多く、普段の仕事が滞り、結局負担・しわよせが来ている。
- ・初任研が多く、学級をあける回数が多いのが不安。外部の研修より、校内のOJTのほうがためになった。
- ・期限付きは一年次の宿泊研修だけ参加できず、同期とうまく経験が積めない。次年度、初任になった際も宿泊のみでイマイチ。
- ・研修後のアンケートのみで十分だと考えています。レポートを作成する時間を教材研究に充てたいです。
- ・テスト前後、学期末は避けてほしい。
- ・小学校の先生の研修に、中学教員が混ぜてもらっている形で、役立たないこともある。勤務時間を過ぎても研修する場合もある。
- ・担当学年の宿泊行事と、初任研の宿泊研修の日程が重なり、途中で帰らなければならなくなった。5日間、連続して宿泊しなければならない状況は大変苦勞した。

研修・研究授業

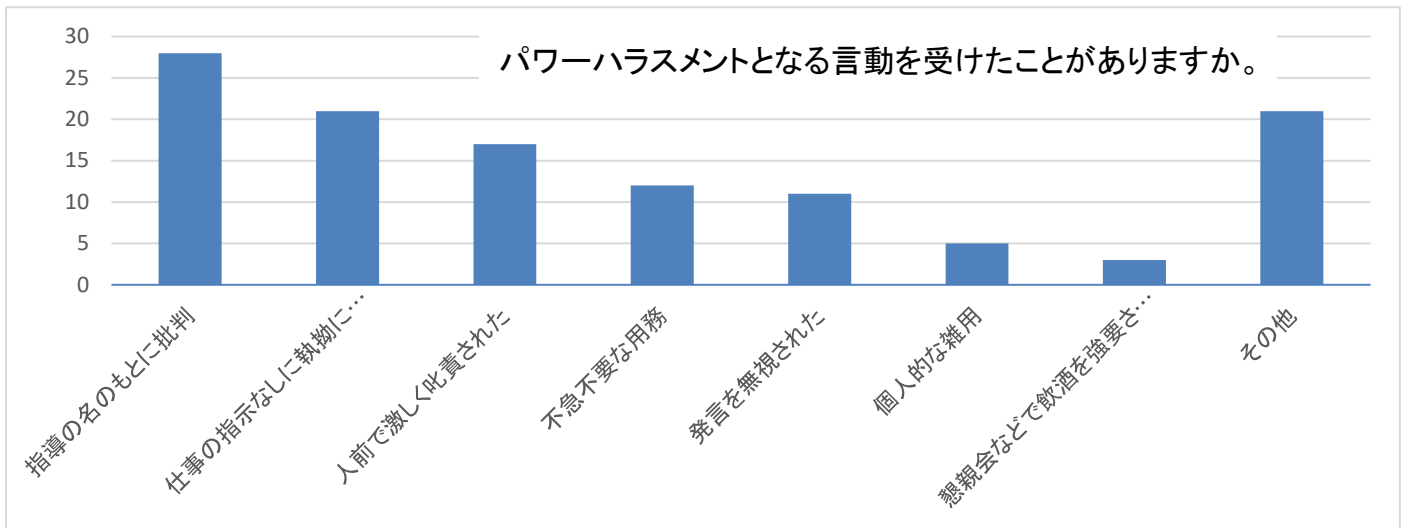
- ・多い。指導案づくりに時間をさいてしまう。研究でやっている授業は準備などにかけている時間が多大なため、実践するには難しく、今必要なことに時間をかけたい。
- ・期限付きの時にも初任研で研究授業をしたのに、新採でもう一度やらなければならない。

研修・その他

- ・「宿泊」で研修をする意義が感じられない。飯盒炊飯や登山もあるが、それは研修なのか疑問である。
- ・子どもがいるので、宿泊研修は負担。
- ・宿泊研は勤務時間外も活動を強制され、働き方改革を推進すべき指導室がおかしいのではと感じます。
- ・夏の宿泊研にスーツ・ネクタイの強要は、熱中症になって死ねということなのか。
- ・他の自治体で3年次研修終わっているのに、東京でも初年度からしなければならない。
- ・教員21年目（私立16年）、今年度2年次研修。ウンって感じです。

パワーハラを受けたと感じたことがある人 88人（37%）

パワーハラスメントは、今や働きやすい環境、モチベーションの最大の阻害要因になっています。



具体的な記述を紹介します。

- ・育児を理由に職員旅行を断ったら、「その時は子どもは6か月だから問題ない。今のうちから奥さんに許可をもらっておけば大丈夫。」と言われた。坐骨神経痛の妊婦の妻の面倒について、「君の実家にお世話になればいい。近いんだからそれで解決。」と言われた。
- ・他の初任者と比べて机が整理されていないわけでもないのに、かってに片づけられる。他の先生の話だと、机の中も勝手に開けている。
- ・自分の思い通りにならないと人格を否定された。怒られ続けて、教員を続けていく自信がなくなったことがあった。
- ・具体的な指示なしに「とりあえずやってみて」と言われることがあまりにも多く、ストレスを感じる。
- ・私用で早退させてほしいと校長に相談したところ、却下されたことが何度かあるが、授業がない時間ですら休ませてもらえないなら、いつ休めばよいのか。休憩時間、時間外の職員会議に対して、振り替えがない。18 時前後に退社していると、一生懸命時間内に仕事を終わらせているのに、残っている先生と比べられ、校長に仕事をしていないと直接もしくは間接的に言われる。

アンケートは、最後に自由記述で「その他、自由に書いてください。(長時間労働、部活動、働き方改革など)」の欄を設けました。自由記述の欄にもびっしりと職場で困っていること、知りたいことを書いてくれた人がたくさんいました。

働き方改革について

- ・働き方改革自体はいいことだと思うが、仕事内容が変わらなければ仕事量を減らすことができない子どもや自分自身のためと教材研究に時間を費やすと、なかなか月 45 時間の残業時間内で、仕事を終わらすことはできない。
- ・働き方改革が、労働時間の短縮という短絡的なものにならず、効率的でより効果的に働くための改革であってほしい。
- ・変形労働時間制について非常に興味がある。教職がハズレクジにならないよう、魅力ある職だと、未来の教員志望者に思ってもらえるような職になるよう、偉い方には考えていただきたい。変形労働制については、実際の学校現場で話題にすらなっていない。現場の声をしっかりと拾ってくれることを今後望んでいる。
- ・変形労働時間の制度は何ら根本的に解決するものではないので、何とかしてほしい。

職場環境、職場の人間関係などの悩み

- ・月2日の土曜勤務は、時間のリズムが崩れ十分に休んだ気がしません。他区や他県では、土曜なしもしくは月1回で対応できているところもあるのに。働き方改革をするならば、1日の勤務時間を無理やり減らさせるのではなく、不要な休日出勤を減らしてほしいと感じています。
- ・明らかに教員が不足していると思います。取捨選択していかないと、二千時間仕事しても終わりません。という気持ちです。

やりがいを感じる仕事、職場

- ・毎日、やりがいをもって仕事ができる環境に所属できていることに大変恵まれていると感じています。
- ・校長・副校長先生は、とても親身になってくれるので働きやすい。初めての職場なので、少し遅くなるのは当然と考え、自分で早く帰るよう工夫していきたい。
- ・働きやすい職場です。若手の意見も聞いてくださるので、なんでも話しやすいです。

問題となっているいくつかの事例については、都教委・地教委に問題点を正し、改善されつつあるものもあります。

栄養教諭の主任制度

3年前のアンケートで指摘を受け、都教委と交渉を重ねてきた結果、来年度から導入されることになりました。

長時間労働

一年単位の変形労働時間制については、根本的な解決につながらないため推進しないよう要請しながら、実効性のある働き方改革を強く求めています。

部活動

部活動ガイドラインの実行化を強く求めています。部活動指導員の確保について、外部人材を活用する動きがでてきています。指導員の権限が強くなるよう求めています。

パワハラ

都教委、地教委に対し実例を報告し、解消を求めています。

困った時には、気軽に連絡を！！

力になります！ 東京教組！

03-5276-1311
ホームページもご覧ください。

ttu@tokyokyouso.org

<http://tokyokyouso.org/>

東京教組で検索できます。

東京都公立学校教職員組合青年部